

学校法人 日本芸術学園

日本芸術専門学校

2021 年度 学校関係者評価 報告書

目次

I. 教育理念・目的・人材育成像	1・2
II. 学校運営	3～9
III. 教育活動	10～20
IV. 学修成果	21～22
V. 生徒・学生支援	23～26
VI. 教育環境	27～31
VII. 生徒募集	32
VIII. 財務	33
IX. 法令等の遵守	33
X. 社会貢献・地域貢献	34
XI. 国際交流	34・35

I. 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-1 学校の教育理念・目標の設定	4(3名) 3(3名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント <u>・2つのミッションについて少し分かりにくい。</u> <u>・記載のとおり、高い意識を感じる。</u> <u>・誰が見ても分かりやすく良いと思う。</u> <u>・3つの理念は、芸術専門学校として必要であり、大切にされるべき事柄。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-2 時代、社会、学習者のニーズへの適合	4(1名) 3(6名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・その時々に応じて、対応できる姿勢、取り組み方等、良いと思う。</u> <u>・1-1に同じ。</u> <u>・これからも続けていってほしい。</u> <u>・まずは技術を身につけたプロになる。その後、社会に必要とされる表現者とはなにかを迫及する。</u> <u>・時代にあわせた新しいコースの解説や、実際に最前線で活躍している講師を招く等の取り組みをされているので、ほぼ適切に行われていると思う。</u> <u>・オンライン配信環境の導入やコロナ禍でのミュージカル公演実施など、時代の流れをしっかりと捉えて運営されていると感じる。学習者のニーズに応えるのは多種多様な考え方がある中で難しいと思うが、ニーズとのミスマッチが大きい様にして頂ければと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-3 定期的な点検、見直しの実施（時期・方法・組織）	4（4名） 3（3名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.5 点
委員コメント ・良いと思う。 ・良いと思う。 ・定期の見直し、その結果の開示が必要。 ・職員会議等で必要な際に適宜行っているとの事でほぼ適切に行われていると思う。只、実際にその機会を持たれたかどうか外部からは見え辛い為、何か対策があっても良いかもしれない。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-4 教育理念・目標の教職員・生徒・学生等への浸透方法、浸透度	4（2名） 3（4名） 2（1名） 1（0名）	平均 3.1 点
委員コメント ・1-1に記載のとおり、2つのミッションについて少し分かりづらく、生徒への浸透度がどの位か気になる。 ・学校としての一貫した個性の確立など、もう少し検討の余地ありと感じる。 ・良いと思う。 ・理念をより周知させる方法、回数などに工夫がほしい。 ・一方的な発信となっている印象はありますが、地道に継続していく以外に浸透度を上げる術は無いかと思うので、続けて頂きたい。		

Ⅱ. 学校運営

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-1 役員の選定の基準の適正さ	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・ ほぼ適切。</u> <u>・ 報告というかたちでの承認ではなく、もう一步踏み込んだ、各役員に就任される方々の特性も紹介してほしい。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いします。</u> <u>・ 適切に行われている様に思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-2 理事会、評議員会の開催状況	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 適切であると思う。</u> <u>・ 計画に従い適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-3 寄附行為の定期的な点検と見直し	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 点検し、違法、不正が起こらぬようにお願いします。</u> <u>・ 法改正に伴い、見直しされているので適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-4 事務組織の明確化	4(3名) 3(3名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント <u>・ 講師に学内の事務組織が、もっと明確に伝わると良いと思う。</u> <u>・ 保護者にも分かるようにしてもらいたい。</u> <u>・ 学内での組織図が明示されると便利。</u> <u>・ しっかりと組織化されておりほぼ適切かと感じる。只、周知されていない印象もありその部分が今後の課題かと思われる。</u> <u>・ 開示できる範囲で組織図は公開してもよいのではと思う。実際に公開している学校もあるので検討頂ければと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-5 学校運営会議、教育会議などの定期開催	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・運営の会議は適切と思う。講師会議なども行えれば、授業の横のつながりができるのでは、と思う。</u> <u>・昨年に引き続き連絡会、経営会議が設けられており、適切に行われているように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-6 各会議の内容と適正さ	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・引き続きお願いします。</u> <u>・各会議において議事録をとり重要内容を保存する等、適切におこなわれている様に感じる。</u>		

2-7 諸規程の制定 は省略させていただきます。

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-8 諸規程の整備及び職業安定所への届出	4(7名) 3(0名) 2(0名) 1(0名)	平均 4 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・引き続きお願いします。</u> <u>・顧問社労士に相談のほか、制定 / 改定した際には都度職業安定所へ届け出がされており適切に行われているように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-9 諸規程の定期的な見直し	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 必要であると思う。見直し項目なども可能なものは公示してほしい。</u> <u>・ 適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-10 学則等の定期的な見直し	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・ 校名の略称「日芸」が、大学名と間違われないうか、少々気になる。</u> <u>・ 新たな取り組みには賛同できる。学校として数年単位で目標や変化を元に見直しを考えると更に良いと思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 校名変更については、今の校名がよく内実を表していて、変更せずとも良いのではないか。</u> <u>・ 以前から芸術という名称を用いる事に、少し違和感があるので、芸能その他ステージアート、舞台パフォーマンス・スタッフのような要素があれば良いと思う。</u> <u>・ 来年度から学科変更が行われるが、それに伴い多岐に渡り変更、変化があるものと思われる。それに伴い現場に混乱が起こらない様、情報共有も意識して運営して頂ければと思う。</u> <u>・ フレキシブルに学科やコース変更などを行っている印象があり、常により良くを追及していると感じる。一方で学科や専攻変更は学生や受験生等に与える影響も大きいと思うので、あまり短期間で変更するのは望ましくないと感じる。大枠はある程度残して中身をブラッシュアップするなど定期的にしていくとよいかなと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-11 学生及び文書、備品等を守るための防犯対策の整備	4(4名) 3(1名) 2(2名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント ・高価な機材等がある中、時間によっては校内が非常に人気が少ない、無防備に感じる事が時々ある。 学内からの持ち出し、侵入等更に防げると良いと思う。 ・現在の対策の状況が分からない。充分でない場合は、対策した方が良いと思う。 ・適切であると感じる。 ・適切に行われている様に感じる。 ・自己点検評価ではどのような課題があつて今後どのような整備が適宜必要と考えられているのかが読み取れなかった為、評価は2としている。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-12 各教職員の防犯に対する認識の徹底	4(2名) 3(5名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント ・以前も部外者が、外で学生を待ち伏せしていたり、という事があつたので、今後も安心して学校生活を送れる取り組みをしてほしい。 ・特に芸能の仕事をしている生徒がいる事を考えると、警備員がいても良いと思う。 ・万が一を考えての防犯の備えは必要。 ・見回りの際のチェック項目を作成する等、適切に行われている様に感じる。只、部外者が侵入し騒ぎになったとの事、玄関での足止め(チェック)をする等、校舎に入る前にもう一段階なにか対策があつても良いかもしれない。 ・昨今いつ何が起きてもおかしくない事件が多発している為、決して広い学校ではないが防犯に関しては今までの認識を改めて引き締めていく必要があると感じる。また防犯の一環としては、不審物や放火への対応についても改めて策定するとともに、警備会社へのホットライン確保や警察、消防との連携を強めていくことも今後の安心安全につながると思うので、是非力を入れて頂きたいと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-13 学校安全保健計画、消防計画の作成	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント ・授業時の地震・火災発生に対応できるよう、各講師にも避難経路等伝わっていると良いと思う。 ・良いと思う。 ・感染対策など細かく対処できていると思う。 ・校舎に入る際の検温やアルコール消毒等、感染防止対策に関しては、適切に行われている様に感じる。 <u>防災に関しても訓練を実施されているので適切かと思うが、講師に対しては行われていない為、避難経路についてのガイダンス等、あってもよいかもしれない。</u> ・実際に地震や火災が発生するシチュエーションとしては、多くの学生、講師が滞在している時間帯に発生する可能性が高いと感じるので、職員のみではなく、学生や講師への行動要件などの事前インプットをすることで、二次的な人災を防ぐことに繋がると感じる。感染予防については時間と共に緩みが出てくると思うので、定期的な啓蒙を計画していくことが必要と感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-14 個人情報保護法の遵守	4(7名) 3(0名) 2(0名) 1(0名)	平均 4 点
委員コメント ・良いと思う。 ・良いと思う。 ・引き続き遵守をお願いします。 ・最終的には各自のモラルに依存する部分もあるので、100%は難しいかと思うが、出来る限りの対策を適切に行っている様に感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-15 セクシャルハラスメントの防止、対応マニュアルの作成	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント ・授業の内容によっては、性別を分ける場合もあるので、LGBTQ の生徒については、事前に情報共有できた方が良いと思う。演技、ダンス、歌など、どうしても身体接触を必要とする科目で、過敏すぎる反応がおきないようにできたら良いと思う。 ・大事だと思う。 ・意図せぬハラスメント行為、言動があるかもしれない。都度留意することが必要。 ・今後は講師契約の際にもハラスメント防止に関する注意書きが添付されるとの事で適切に行われているように感じる。 ・多様性の時代に合わせてしっかりと対応されている印象がある。例えば職員が受けた研修の一部を動画学習が出来るようにして講師にも展開すれば、よりハラスメントの防止に効果を発揮すると思うので是非検討頂ければと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-16 相談窓口の設置と適切な対応	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント ・良いと思う。 ・大事だと思う。 ・必要な対処である。 ・適切に行われている様に感じる。		

Ⅲ. 教育活動

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-1 教育理念、目標の反映	4(2名) 3(4名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・高い教育理念に沿った現状には、未だ到達していないと思う。</u> <u>・実践的なカリキュラムで概ね教育理念を実現できている様を感じる。受け取る側(生徒側)がどれだけ理念を理解しているかにも関わってくる為、その点で今以上に生徒への周知が必要な気がしている。</u> <u>・カリキュラムだけでは教育理念の反映は見えにくい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-2 カリキュラムの構成 (教養科目と専門科目、座学と実習など)	4(4名) 3(2名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・学生に寄り添ったカリキュラム構成と同時に、学校としての個性、特性を活かしたカリキュラムも確立してほしい。</u> <u>・外国語授業、資格授業はとても良いと思う。</u> <u>・専門性のある講師陣であると思う。</u> <u>・講師の専門性の高さは評価できる。新たに導入された資格取得や外国語授業も素晴らしい取り組みだが、生徒側が理解していないと、通常授業のコマ数が減っただけに見えるため、その点を気を付けて頂ければ良い取り組みだと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-3 カリキュラムに対する学生・卒業生の評価 ※重点項目①	4(0名) 3(3名) 2(4名) 1(0名)	平均 2.4 点
委員コメント ・授業によって人数が多くなっているように感じる。学校自体に来なくなってしまう生徒も出てくるので、<u>抽選にもれた生徒へのケア、事前の説明等できることがもっとあると思う。</u> ・授業の定員制は良いと思うが、抽選漏れした生徒の中にも熱意を持った学生へのフォローが必要かと思う。 ・コロナの対策などで、仕方がないと思うが、平等に授業を受けられたら良いと思う。 ・少人数での授業は、体を使って覚える分野で効果が高い。表現者としての身体づくりの基礎訓練のための<u>授業がもっとあると良いと思う。</u> ・今後に期待する。 ・少人数制も大切ではあるが、生徒が学ぼうとする意欲も大切にしてあげて欲しい。例えば授業を撮影し、<u>アーカイブとして視聴できる(単位取得とはならない)環境があると良いと思う。</u> ・少人数制を謳っている以上、希望の授業が取れない、人数が多いという学生の意見は真っ当であると思う。<u>オンラインと対面の併用や授業を前・後期制にするなど、開講方法もフレキシブルな対応が必要と感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-4 カリキュラムの定期的な点検及び見直し	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・担当講師に、学生アンケート内容を具体的に伝えと、講師のモチベーションも上がると思う。 ・必要だと思う。 ・効果的なタイミングでの検討、変更は必要である。 ・学生からの回答をもとに点検されている点は素晴らしいと思います。講師の先生にもヒアリングする等、<u>見直しされる際の判断材料は更にあっても良い気がする。</u> ・カリキュラムアンケートの内容が自己点検評価からは読み取ることが出来なかったが、カリキュラムに特化したアンケートはもちろん、授業評価アンケートも活用し、カリキュラム見直しの材料とすればより良い見直しの効果が得られると思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-5 実習システムの現況と今後の見直し ※重点項目②	4(1名) 3(2名) 2(4名) 1(0名)	平均 2.5 点
委員コメント ・現段階では実習システムがうまく連携しているように思えない。スタッフの仕事を学べば、インターンシップは可能なのではと思う。 ・芸能に関しての企業内実習やインターンシップは確かに難しいと思う。大手制作会社との連携など、うまくやっている部分は評価できる。 ・芸能の世界で仕事についていけるのは、本当に少人数であるため、他の事を学ぶのは大切だと思う。 ・専門家の現場にインターンシップとして学生が混ざること、あまり想像できない。「劇団体験」「稽古場見学」といったかたちの方が、双方学びが多いのではと思う。 ・苦労が伴う作業だと思う。 ・演者としてのインターンシップは難しいかと思うが、職業実践専門課程の認定校となる為にも、他校の取り組み等参考にし、具体策の明示が必要に感じる。 ・表現者としてのインターンシップや企業研修は現実的に難しいと感じる。ただ学校内ではカバー出来ないような、表現者として仕事をする上で関連する職業でのインターンシップや企業研修は十分可能ではないかと思うので検討の余地はあるかと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-6 シラバスの作成・学生への提示状況	4(4名) 3(2名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・どの学校でも、シラバスは履修生の個性が分かる前に提出するので、後々シラバス通りにはいなくなる。本校でも履修人数が決まる前にシラバスを作成するので、テキストや流れ等、差異が出やすくなると思う。 ・良いと思う。 ・学生が授業の通年計画を理解するのに、有効である。 ・スマートフォンで閲覧できるようになっているのは、コロナ感染対策的にも無駄な移動を発生させない為、素晴らしい対応だと思う。講師にもゲストアカウント等で、講義スケジュールが閲覧できると尚よい様に思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-7 教育方法の工夫・研究の取り組み	4(3名) 3(2名) 2(2名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・いくつかの授業で、アウトプットの設定をしているのは、良いことだと思う。</u> <u>・授業成果のアウトプットの場に関しては、更なる検討をしてほしい。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・コロナの影響などもあったが、具体的な取り組みは少なかったのではないか。</u> <u>・ほぼ適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-8 生徒・学生の授業評価とその反映	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・人数の多いクラスだと、細かい点数配分がとても難しい。</u> <u>・良いと思う。生徒や保護者に分かりやすく提示することが必要だと思う。</u> <u>・評価方法は客観性があって良いと思う。</u> <u>・客観的な評価方法で適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-9 卒業生・企業等の評価と活用	4(2名) 3(5名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント ・オンラインを取り入れたのは、とても良い取り組みだと思う。 ・良いと思う。 ・様々なプロダクション、劇団などが、なにを評価するのか、どういう才能を求めているのかが解って有効である。また公開オーディションの体験も貴重である。 ・自身に対する客観的な評価を知る事が出来、次年度のカリキュラムでそれを補える運用となっているので適切に行われている様に感じる。 ・コロナ禍においてもオーディションへの参加企業を安定して確保出来ており、業界の声を活用されていると感じる。オンライン配信をする場合、全員を同じ条件下で適切に審査する為にカメラワーク等で真の実力が見えにくくならないよう配慮が必要と感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-10 成績不良者への対応	4(1名) 3(4名) 2(2名) 1(0名)	平均 2.8 点
委員コメント ・授業に出なくなる学生が、その授業だけ来ないのか、学校自体に来ていないのか、早い段階で講師も分かる、何か手助けになることがあると思う。 ・登校できない生徒を来させるのは、なかなか難しいと思うが、退学になるまでのサポートをどのくらい学校側がしたのかという記録は残した方が良いと思う。 ・難しい問題である。 ・最近は、精神状態も細かく分かれているので、難しい作業だと思う。 ・学科担当制度により対応が必要な生徒に対し、ピンポイントで対応がなされており十分にケアできている様に感じる。只、未卒業者が昨年より増えている事を考えると、保護者との連携よりも当事者の生徒との対話がより重要なのかかもしれないと思った。 ・難しい問題ではあるが、少々厳しいことを言えばエンターテイメント業界ではその業界の特性上、遅刻、欠席、成績不良者はそもそも職業として就くことは難しく、学校として即戦力となる人材の育成を目指していくのであれば、一定水準の技術を習得するまで留年して対応していくことが望ましいと思う。ただ現実的には難しいと思うので、引き続き学校と保護者と学生でコミュニケーションを取っていければよいと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-11 学則・細則・内規に準拠した評価	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・分かりやすく提示することが必要だと思う。</u> <u>・適切である。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-12 各成績判定者の審査基準、意思の統一	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・現行で問題なし。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-13 評価の客観性・妥当性・信頼性・公平性	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・問題なし。</u> <u>・教職員の評価会議を行う等、適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-14 年度別合格率の推移、問題点の把握と対策	4(2名) 3(5名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント <u>・資格取得が可能な状況であることは良いと思う。</u> <u>・取得できる資格にヘアメイク等もおもしろい。</u> <u>・自身の身体の状態、調子を判断するのに有効。</u> <u>・資格取得が目的ではないので、現状で問題ない様に感じる。生徒に資格取得の機会が与えられていることは素晴らしい事だと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-15 不合格者への対応	4(3名) 3(3名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・資格取得を目標にして不合格となった生徒が出た場合には、フォローは必要な様に思う。</u> <u>現状そのような生徒は居ない認識だが、今後そのような生徒が出ないとも限らないので、対策の準備だけは必要な様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-16 専任教員と非常勤講師との数的・男女のバランス	4(3名) 3(2名) 2(2名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・専任教員の比率がもう少し高い方が良い。</u> <u>・問題無いと思う。</u> <u>・専任教員の不足を感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-17 教員の平均年齢とバランス	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・問題なし。</u> <u>・適切だと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-18 1人当たりの担当授業時間数の点検	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・現行で問題なし。</u> <u>・講師の負担に気を配って行われるのが良いと思う。</u> <u>・適切に行われているように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-19 担当業務の内容と全体のバランス	4(2名) 3(2名) 2(3名) 1(0名)	平均 2.8 点
委員コメント <u>・誰が、なにを担当しているのか、多少なりと分かるとありがたい。</u> <u>・現状の業務量を専任教員3人が適当であるか不明。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・専任教員を増やすことによって、解決していく。</u> <u>・適切に行われている様を感じる。</u> <u>・業務分担よりも人員不足のように見受けられる。教務の中だけでなく、部署を越えて業務バランスを整えることが必要と感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-20 定期的な人事考査の実施	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・適切である。</u> <u>・運営の苦労もあると思うが、協力する教員も尊重してほしい。</u> <u>・適切に行われている様を感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-21 教員の教育能力開発への取組状況	4(2名) 3(2名) 2(3名) 1(0名)	平均 2.8 点
委員コメント <u>・見直しを望む。</u> <u>・必要だと思う。</u> <u>・改善が必要。</u> <u>・良い取り組みではありますが、本年度は実施できていないとの事ですので、また実施できるように改善して頂きたい。</u> <u>・是非取り組んで頂きたい項目だと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-22 教員 1 人あたりの学生数の割合	4(2名) 3(4名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・3-19 に同じ</u> <u>・良いと思うが、これ以上学生が増えたら厳しいと思う。</u> <u>・担当学生数を少なくする方が、細かいケアができると思う。</u> <u>・適切な様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-23 職員の人数並びに年齢構成、男女のバランス	4(2名) 3(4名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・女性の職員が同じくらいいると良いと思う。</u> <u>・問題なし。</u> <u>・適切なバランスの様に感じる。</u> <u>・教員同様に在籍人数が少ないと感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-24 担当業務の内容と全体のバランス	4(1名) 3(6名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・誰がなにを担当しているのか、あまり把握できなかった。</u> <u>・3-19と同じく、業務量と職員数のバランスがとれているか不明。</u> <u>・状況が分からないが、全ての業務をきちんとこなせる量なら良いと思う。</u> <u>・適切な配置をお願いします。</u> <u>・教員を兼任の場合は、業務負荷が高そうに思われますので、兼任による問題が発生しないよう気を付けて取り組んでいければ良いと思う。</u> <u>・絶対数が少ない中でどのように人員配置の検討を行っているのか自己点検評価からは読み取れなかったが、1人当たりの業務量が多く余力があまりないと推察されるので、増員をするか業務を切り捨てるかして効率化を図った方が良いかと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-25 定期的な人事考査の実施	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・評価、業績を申告できるのは良い。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-26 各職員の意思疎通（報告・連絡・相談）	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・意思確認の会議、連絡会は貴重だと思う。</u> <u>・定期的に連絡会を行っており適切に行われている様に感じる。</u>		

IV. 学修成果

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-1 就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・臨床心理士の先生が来て下さるのは、とても良いと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・評価オーディションの機会は、学生が外部への研究を始める場となる。心のケアが必要な学生の状況は、注意しつつもう少し共有しても良いのではと思う。</u> <u>・今の時代、大変良いと思う。</u> <u>・昨年同様、公開オーディションをオンライン併用で実施する等、コロナ禍の状況を配慮したよい取り組みだと思う。カウンセリングを受けられる体制も整いほぼ適切に行われている様に感じる。</u> <u>・概ね適切に取り組まれていると感じる。公開オーディションは学校の強みでもあると思うので、さらに非公開のオーディションや劇団や芸能事務所のオーディション情報が取得できるとなお良いと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-2 動向分析	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・コロナの影響の進路変更はいたしかたない。進路の決まらなかった生徒の事情も知りたい。</u> <u>・コロナ禍で通常通りにはいけないと思う。長引くようであれば、もう少しやり方を変える事が必要だと思う。</u> <u>・中退率が減少しているのは喜ばしい。</u> <u>・多方面に気を遣うところだが、適切だと思う。</u> <u>・高い就職率で、取り組みの成果が出ている様に感じる。中退率も前年度より下がっており適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-3 中途退学への対応	4(3名) 3(3名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント <u>・生徒がいつのまにか退学していることがある。もう少し早めに講師にも情報がほしい。</u> <u>・必要だと思う。</u> <u>・対応として、問題はないと思う。</u> <u>・個人を尊重しつつ、必要なことだと思う。</u> <u>・本人の意思、保護者の意思も確認する等出来ているので適切に行われている様を感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-4 卒業生の活躍の状況	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・事務所だけでなく、劇団等が増えてくると良いと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・さらに活躍する卒業生が増えると励みにもなる。</u> <u>・素晴らしいと思う。</u> <u>・幅広い分野で活躍されており良い状況だと思う。</u>		

V. 生徒・学生支援

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-1 担任、担当者による進路・就職相談の実施	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 早い段階から進路についての相談、指導が必要。</u> <u>・ 定期的に担当教員と面談を実施する等、適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-2 卒業後の進路調査の徹底	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・ 進路調査の一覧を閲覧できるとうれしい。授業での指導にも活かせると思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いします。</u> <u>・ 有意義だと思う。</u> <u>・ 卒業時だけでなく、卒業後の状況も調査報告があると更に良いと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-3 新たな求人の開拓のための活動	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 多くの企業が参加してくれるのは、喜ばしい事。</u> <u>・ 2年連続で参加企業数が増加しているのはすごい企業努力だと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-4 カウンセラーによる学生相談室の設置 並びに相談システム	4(2名) 3(4名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・とても良いと思う。</u> <u>・受けたい生徒が全員受けられるシステムになると良いと思う。</u> <u>・カウンセラーが毎週いられるようになると、さらに良い。</u> <u>・臨床心理士による学生相談室の設置がされるだけでなく、毎回学生のカウンセリングの予約が埋まっている状況との事で適切に行われている様に感じる。予約が一杯でカウンセリングを受けたくても受けられない生徒が出ない様にしていく事が大切かと思う。</u> <u>・必要に応じて開設頻度の増加や外部相談窓口の確保も行えればよいかと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-5 相談者の守秘義務の徹底	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・徹底するべきだと思う。</u> <u>・大事なこと。引き続きお願いします。</u> <u>・適切に対応されている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-6 相談内容によるカウンセラーと教職員との連携	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・大切な連携であると思う。</u> <u>・今後、コロナ禍で心のケアの需要は増していくかと思うので、教職員の方との連携は、より密に行って頂きたい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-7 奨学金制度の整備	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・新聞奨学生を利用している生徒が、どのくらいいるのか、また出席率等気になる。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・奨学金のシステムは学生だけでは、理解しにくい面がある。保護者も含めて借用額、返還方法など覚悟した上で申請する必要があると思う。</u> <u>・奨学金の選択肢が複数あり充実している印象。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-8 奨学金貸与者の推移	4(7名) 3(0名) 2(0名) 1(0名)	平均 4 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・給付型奨学金の受給者が増えたのは、大きな成果であると思う。</u> <u>・適切に周知されている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-9 学生寮の有無、管理・サービス状況	4(5名) 3(1名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・学校保有の学生寮があると、ゆくゆくは望ましい。</u> <u>・取引のある学生寮が閉館した際にも迅速に対応されており適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-10 定期健康診断の実施及び受診項目	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・適切であると思う。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-11 卒業生のフォローアップ状況	4(2名) 3(4名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・同窓会は、情報共有等いろいろな役立ち、良い効果があると思う。</u> <u>・卒業しても気軽に遊びに行ける学校が良いと思う。</u> <u>・卒業生と在校生の縦のつながりを、同窓会などで強固にできると良いと思う。</u> <u>・昨年も同窓会の検討との事で報告があったが、変わらず検討との事。本格的に対応されるのを期待している。</u> <u>・同窓会や校友会などの組織を作り運営していくのはとても良いと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-12 卒業生や就職先等関係者の意見聴取等の活用状況	4(1名) 3(3名) 2(3名) 1(0名)	平均 2.7 点
委員コメント <u>・ぜひ連携をしていってほしい。</u> <u>・引き続きお願いします。</u> <u>・昨年はコロナ禍という不測の事態で仕方ない気もしたが、今は With コロナと言われ、コロナが不測ではない状況となっている。是非コロナ禍でも上手く連携ができる様にして頂きたい。</u> <u>・コロナ禍も2年が経過しているので、例年のやり方に囚われず新しい聴取方法で継続し活用されることが望ましいと思う。</u>		

VI. 教育環境

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-1 施設の使用状況	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・ 土日也可以使用できることは良いと思う。</u> <u>・ 問題ない。</u> <u>・ 適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-2 普通教室、実習室の面積(全体、学年1人あたり)	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・ 教室は多い方だと思うが、時に学生の人数に対して広さが足りなくなることもある。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 第5、第6教室の間の防音がもっとされると、気兼ねなく声を出せると思う。</u> <u>・ 適切だと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-3 保健室・休憩室の整備	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いします。</u> <u>・ 感染症予防の観点からも衛生的で問題無い様に思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-4 自学・自習室の有無	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いします。</u> <u>・ Office365 や Adobe Creative Cloud の導入など、素晴らしい取り組みだと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-5 各室の安全性、セキュリティ対策の状況	4(2名) 3(5名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント <u>・ 適切だと思う。</u> <u>・ 消毒、防菌の対応が、工夫されていて良いと思う。</u> <u>・ 感染対策については以前より厳重に対策されており適切かと思う。只、不審者の侵入等、刑事事件的なセキュリティ対策で言うと、もう少し強化の必要があるかもしれない。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-6 卒業生の利用希望への対応	4(7名) 3(0名) 2(0名) 1(0名)	平均 4 点
委員コメント <u>・ とても良いと思う。</u> <u>・ 卒業生にも配慮された対応で良いと思う。これにより卒業生も母校を訪問しやすくなると思う。</u> <u>・ 適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
6-7 教育用機器備品の整備、充実度	4(4名) 3(2名) 2(1名) 1(0名) 平均 3.4 点
委員コメント <u>・コロナ禍の今、各教室の換気に関する設備の充実を望む。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・問題ないと考える。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>	

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
6-8 視聴覚、情報機器の整備、充実度	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名) 平均 3.7 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・引き続きお願いします。</u> <u>・ソフトの充実に加え、Wi-Fi 環境も整備され適切に行われている様に感じる。</u>	

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
6-9 学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名) 平均 3.8 点
委員コメント <u>・時々、行事運営時の人間関係で悩んでいる学生がいるが、それも良い経験になると思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・学生の企画、運営、連帯の意識を高めるのに役立っている。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>	

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-10 学校行事による学生、教職員間の連帯意識の育成	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いします。</u> <u>・ 適切に行われている様を感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-11 担任制による学生への対応の徹底と認識	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 講師も担任の把握ができたら良いと思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いします。</u> <u>・ 適切に行われている様を感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-12 正課授業内に発生した事故への適切かつ迅速な対応	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 問題ないを考える。</u> <u>・ 適切に行われている様を感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-13 防災の対応マニュアルの作成と適切な対応	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・講師も対応できるように、取り組んでいきたい。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・問題ないと考える。</u> <u>・防災マニュアルを作成されており適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-14 防災訓練等による学生への防災対策の周知	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・万が一に備え、防災訓練など引き続きお願いします。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-15 防災訓練の実施状況及び方法	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・避難経路、避難場所の確認、周知が必要。</u> <u>・本年度は自主的にとの事ではありますが、適切に行われている様に感じる。</u>		

VII. 生徒募集

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
7-1 広報活動開始の時期、方法 ※重点項目③	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・とても積極的で良いと思う。 ・体験授業がコロナで人数激減することなども、想定した企画作りができると良いと思う。 ・高校2年生を対象とした活動も必要だと思う。 ・ドローンを使つての学校紹介動画などが、効果的。新作や、高校演劇部の地区、県、全国大会への協賛、宣伝活動、活躍中の卒業生の協力も得て親しみやすい広報作りが必要だと思う。 ・できることは、ほとんど努力していると思う。それでも苦戦することは必至で、継続的な努力が必要だと思う。 ・多岐に渡る手段で広報活動されており適切に行われている様に感じる。 ・やるべきことは適切に行われている印象がある。進学を決める本人、保護者の不安が払拭できるような情報を発信する方法（在校生や卒業生、現役生の保護者に学校説明会で話をしてもらうなど）をもっと増やしていければよいと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
7-2 誇大広告の自己点検（学校案内等）	4(3名) 3(3名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント ・「少人数制クラス・授業」をうたっているのですが、もう少しそのとおりになればと思う。 ・ホームページのブラッシュアップとともに、SNSの運営も改善してほしい。 ・良いと思う。 ・引き続きお願いします。 ・適切に行われている様に感じる。		

VIII. 財務

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
8-1 学校経営における適正度の点検	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・引き続きお願いします。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

IX. 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
9-1 法令遵守の状況について	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・引き続きお願いします。</u> <u>・顧問弁護士にアドバイスを受ける等、適切に行われている様に感じる。</u>		

X. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
10-1 教職員・学生・生徒が活動するための学校の支援体制	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・活躍をした学生の事は、知りたいと思う。とても良いと思う。</u> <u>・今の状況では、窓を開けての授業等の可能性もあると思うので、町内、地元とのつながりは大切にしたい方が</u> <u>良い。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・地域で愛され、親しまれる学校であるためにも「芸術専門学校」としての特性を生かした貢献の形は、大事</u> <u>であると考え。</u> <u>・大変評価できる。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

XI. 国際交流

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
11-1 留学生の受入れ・派遣のための体制整備	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・今の状況で、留学生が減るのは仕方のないことだと思う。</u> <u>・現在のコロナの中ではなかなか厳しいと思うが、平常の時はたくさん受け入れて良いと思う。</u> <u>・日本語力は相当あることが必要。</u> <u>・適切に行われているように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
11-2 国際交流の枠組	4(1名) 3(6名) 2(0名) 1(0名) 平均 3.1 点
委員コメント ・実施できていないのは、いたしかたないと思う。代わりの事がなにかできると良いと思う。 ・コロナの中では今は無理なので仕方がないと思う。ただそれを楽しみに入学している生徒のために何か代わりを行ってあげることも必要だと思う。 ・国際交流、アメリカ研修など大きく成長する契機ともなり得る。 ・演劇やミュージカルに関しては、各国の言語で行っている。日本への留学への取り組みは時間がかかると思う。 ・コロナによる入出国の禁止等あるなか、出来る限りの事は行われている様に感じる。	

2021 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2022 年 2 月 1 日（火）14:00～

場所：日本芸術専門学校 第 3 教室

出席者：11 名（敬称略）

高山 佳音里、ひの あらた、大西 伸行、砂田 明子、竹下 恭平

武田 光弘、山口 忠生、西垣 俊紘、鈴木 秀範、中迫 まい子、広井 里佳

欠席者：2 名（敬称略）

大島 幾雄、小高 三良

中迫氏が司会進行。

まずは武田氏から校長挨拶及び趣旨説明を行った。

次に司会から配布資料の説明をした。

■配布資料

- ① 本日の議題
- ② 日本学生支援機構 給付型奨学金リーフレット
- ③ 学校評価組織体系
- ④ 事業計画書
- ⑤ 今年度の取組について
- ⑥ 学生アンケート結果
- ⑦ 2021 年度 自己点検・評価
- ⑧ 2021 年度 学校関係者評価 記入シート
- ⑨ 2021 年度総合舞台制作 フライヤー
- ⑩ お振込先等ご記入シート

次に司会が**委員及び教職員の紹介**を行った。

続いて**委員長の選任**について。

武田氏から、引き続き高山氏に依頼するかたちでどうかと提案があり、全員賛同で高山氏が続投することに決まった。

次に下記項目についてそれぞれ自己評価委員が説明をした。

- ・ **学校関係者評価事業計画の説明**→武田氏（④ 事業計画書 参照）
- ・ **今年度の取組について**→山口氏（⑤ 今年度の取組について 参照）
- ・ **学生アンケート結果について**→山口氏（⑥ 学生アンケート結果 参照）
- ・ **学校紹介**→西垣氏

なお施設案内は今回省略した。

続いて司会から、**自己評価概要説明**を行った。

その後、**3つの重点項目についての説明及び学校関係者評価委員による評価、質疑応答等**を行った。

詳細は下記のとおり。

重点項目① カリキュラムに対する学生・卒業生の評価（Ⅲ－３）

〔自己点検評価〕３ページ 〔学校関係者評価〕９ページ

まずは武田氏から、業界で活躍していくために受けておかなければいけない授業と学生が受けたと思う授業が合致しているのかどうか、今後しっかり見極めていきたい、また学生にとって人気がある授業だけでなく、必要な授業を持続的に受講してもらいたいという意見があった。

その後１分間の時間をあけて、司会が学校関係者委員を１名ずつ指名し、下記評価をいただいた。

高山氏の評価は「２」、下記はそれに対する意見。

かなり人数が多かった、その後来なくなる学生が数名でてきたので、作品の選択や学生対応など難しいことも多かった。

実習も可能な限り授業に影響しないかたちで受けてもらいたいという意見があった。

竹下氏の評価は「２」、下記はそれに対する意見。

募集で少人数制をうたっているので、抽選でとれない授業があるなどの学生アンケートの内容はまっとうなこと。もっと学生に事前に丁寧に説明した方が良い。

１つの授業をグループ分けして、オンラインと対面のハイブリッド型にするなど、他にも良いかたちがあると思うという意見があった。

ひの氏の評価は「２」、下記はそれに対する意見。

自身の授業は抽選ではなく選抜制、選抜だがたとえば休みが続く学生がでた場合、入れ替えを検討してもいいのではないかと、緊張感を持たせることも必要。また代講をたてる時はたとえば振りを強化する時間にしようと考え、振付の先生に来ていただくなど、代講の先生のバランスは考えている。

定員に満たない場合、もしくは実習で休みの場合は聴講システムをとるのは良いと思う。

改善点をこれからもっと洗い出し改善してほしいという意見があった。

大西氏の評価は「３」、下記はそれに対する意見。

少人数制は大切、抽選で漏れる学生がいても仕方ない、ただ顧客満足度という意味で学生の満足度は高めなければいけない、たとえば選択で受けられない授業をアーカイブ聴講できるシステムなど設けてもいいのではないかと意見があった。

砂田氏の評価は「２」、下記はそれに対する意見。

コロナで仕方ないところもあるが、同じ学費を払っているのに、とれる授業とれない授業があるのはかわいそう、コロナという理由でなにもしないというのはかわいそう

どの学生にとっても平等な措置が大切だと思うという意見があった。

重点項目② 実習システムの現況と今後の見直し（Ⅲ－５）

〔自己点検評価〕３ページ 〔学校関係者評価〕９ページ

まずは武田氏から、2024 年度職業実践専門課程の認定校となるべく、特にインターンシップ、業界との接点を増やす施策というところについて、委員の皆様にご意見をいただきたいという発言があった

その後１分間の時間をあけて、司会が学校関係者委員を１名ずつ指名し、下記評価をいただいた。

高山氏の評価は「２」、下記はそれに対する意見。

実習システムが現在定着しているとは思えない、役者の実習システムをつくるというのは不可能だと思う。それ以外で、プランナーまではいかなくても仕込み、オペレーターができるというところまでいければ、音響照明などの会社に入れると思うので、もっとそのような授業を増やしたらどうか。

あと劇団で今最も必要なのは制作、たとえば演者はあきらめる、照明音響はできない、けどなにか裏方で携わっていきたいという学生のために制作に関する授業を増やすのも良いと思うという意見があった。舞台監督や演出助手の仕事とはなにか、知らない学生が多いように思う、演劇概論などももっと学べる場があれば良いと思うという意見があった。

この意見を受けて司会から、既に音響照明の授業は用意しているが、不定期開講ということで、実践力を身に付けられるところまでいっていない、来年度はもっと厚く授業ができるように考えたい、また来年度演劇史などを学ぶ授業の開講を予定しているという旨、補足説明があった。

竹下氏の評価は「２」、下記はそれに対する意見。

やはり、演者としてのインターンシップはほぼ不可能だと思う。

表現者としてのインターンシップは難しいとしても、それに附随するという意味で、表現者をとりまく環境やスタッフの仕事に対しての実習システム、インターンシップ研修などは意味があるのではないかな。

授業では学びきれない部分を実習で学ぶというかたちが良いと思う。

なぜこの授業を開講するのか、授業の目的を学生に充分説明する必要がある、という発言があった。

ひの氏の評価は「３」、下記はそれに対する意見。

確かにプレーヤーとしてのインターンシップは難しい面もあると思うが、たとえば実際在校生や卒業生が作品にでているケースがある、これはまさに実習というかたちだと思う。

裏方を学べる授業があるのは、本当に良いと思う。

俳優、表現者としての舞台への関わり方ということで、衣裳、小道具、音響、照明どの部門からでもいいので、バックにした授業などがあってもいいと思う。

場当たりを見させてもらう、稽古場見学をする、など企業とアプローチをして、それをインターンシップにつなげるというのもいいのではないかなという意見があった。

大西氏の評価は「2」、下記はそれに対する意見。

表現者としてのインターンシップはやはり難しい。

たとえば声優事務所と連携して、在学中にデビューをする企画を考えれば、それは企業との連携につながるのではないか、という意見があった。

砂田氏の評価は「3」、下記はそれに対する意見。

撮影現場のエキストラに出演する、リハーサルを見せてもらうということも、職業訓練になると思うという意見があった。

高山氏から追加で、

特に劇団など、本来学生を携わらせることはリスク、そのため学生が研修というかたちがあってもただ雑用をさせられてしまうだけ、というようなことには絶対にならないように注意する必要があると思う、という意見があった。

重点項目③ 広報活動開始の時期、方法（Ⅶ－１）

〔自己点検評価〕 11 ページ 〔学校関係者評価〕 29 ページ

武田氏から、コロナ禍で先の見えない状況が続いているので、ご意見をいただきたいという発言があった。

その後 1 分間の時間をあけて、司会が学校関係者委員を 1 名ずつ指名し、下記評価をいただいた。

高山氏の評価は「4」、下記はそれに対する意見。

広報活動は特に問題ないと思う、強いて言えば男子学生を増やすにはどうすればいいか、と思うという意見があった。

竹下氏の評価は「3」、下記はそれに対する意見。

在校生を呼んで普段の学生生活を話してもらったり、保護者にも協力してもらえれば、もっとこの学校をよく知った上でご入学につながるのではないか、と思うという意見があった。

ひの氏の評価は「3」、下記はそれに対する意見。

広報活動の方法は素晴らしいと思う。

引き続きコロナ禍ということで、たとえば体験授業で人数制限があるのは仕方ないが、体験授業の新しいあり方、運営方法を考えるのも良いと思う。SNS も積極的に行っているが、フォロワー数が少ないので、これも運営方法を考えた方が良いと思う。

この学校の売り、強み、個性というものをもっと出して、広報活動をしていけば、次につながるのではないかという意見があった。

大西氏の評価は「3」、下記はそれに対する意見。

広報活動はできうる限りのことを行っていると思う。

学生アンケートの中で、オープンキャンパスで先に話してほしかったという意見があったので、そこを改善すればなお良いと思うという意見があった。

砂田氏の評価は「4」、下記はそれに対する意見。

現在は動きが早く、進路を高2から決め始める、高2向けになにか企画があっても良いと思う

国分寺とMIICAに、もっと専門の存在を知ってもらう機会を増やすのが良いのではないか、という意見があった

特にMIICAでは、専門にあがってもまた同じような授業を受けるのかな、と考えている声もある、専門に上がるともっと専門的なことができるということを周知できれば良いと思うという意見があった。

この意見を受けて、西垣氏から、今年度専門講師が高等課程でワークショップを行うという取り組みを行った、今後もそのような機会を積極的に作りたいと考えている、と補足説明を行った。

ひの氏から追加で

少人数制をうたってさらに抽選をして、聴講制度も設けるというかたちも、学校の個性につながるのではないかという意見があった。

最後に司会から今後のスケジュールを伝え、16：20に閉会した。

今後のスケジュールの詳細は下記のとおり。

学校関係者評価 記入シートを 2月14日（月）までにメール、または郵送にて提出

※郵送を希望の場合には、レターパックを渡す旨伝え、レターパック希望の方は3名いた。

次回の会議日程 3月16日（水）14：00～

第3回 会議候補日程 4月11日（月）～4月18日（月）

以上

令和 3(2021)年度事業計画書

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

学校法人 日本芸術学園

1. 2021 年度 教育目標

□3つの理念

感動の教育…感動は人生の窓を開く。感動が行動を起こし行動が人生を変える

品格の教育…知識・技術・人格・礼節を兼ね備えた品格ある人間を育成する

変革の教育…変革（Change）挑戦（Challenge）達成（Conquest）

□2つのミッション

「Precious Treasure 教育」すべての学生にかけがえのない宝物を提供する

「100%」卒業生が100%満足できる進路を提供する

2. 2021 年度 事業計画概要

昨年度に引き続き、授業の人数や教室の調整、こまめな消毒や換気、オンライン配信の併用など、新型コロナウイルス感染防止対策と予防を徹底して行う。

また各校舎、授業内容の見直しや学科の再編、コースの見直しに伴う一部講師の入れ替え、それぞれの専門分野で活躍している講師陣を招き授業の新設など、「選択と集中」を積極的に行うことで、質の高い教育を提供する予定。

1) 主な年間行事予定

日本芸術専門学校

・主要イベント

□レクリエーション

4月27日28日、大森校地下ホール及び大田区立「平和の森公園」にて、
感染リスクを抑えて親睦を図るイベントを実施。

□特別講義

4月30日、リクルートによるマナー研修、株式会社日音による著作権講座の実施。

□芸術鑑賞授業

5月20日、ホリプロ主催ミュージカル「17 Again」を全学生で芸術鑑賞授業予定。

□学園祭

9月4日5日、来校者を迎えての通常開催予定。

(またはオンライン配信併用、オンライン配信のみのいずれかで実施予定)

□全国学生フラ・フェスティバル

9月にYouTube限定配信にて開催、全国の大学・専門学校20校程が参加。

本校も参加予定。

□Precious Audition

11月24日26日、オンライン配信併用で実施予定。

グループ校の高等課程からも参加者を募集予定。

□ミュージカルプロジェクト

10月28日～31日、ディズニー「High School Musical」を上演予定。

グループ校の高等課程の生徒からの参加者も募集予定。

□2022年2月、コースごとの総合舞台制作を4公演実施予定。

・その他

□教室予約システムの導入予定

□英会話の授業内容を見直し、海外での活動も視野に入れた実践的な内容に変更予定。

□図書室の整備と充実化を図る。

□第1教室に設置しているPCに、office365およびAdobeクリエイティブクラウドを導入し、

DTM以外にも対応できるよう整備予定。

□地下ホール舞台照明にLEDを導入予定。

日本芸術高等学園

・主要イベント

□4月16日 新入生歓迎部活発表会

生徒たちの活動の場を広げ、より充実した高校生活を送るため、すべての部活動の紹介を、実技を交えて行う。

□7月2日 芸術鑑賞会

劇団四季「アナと雪の女王」を観劇し、知識や教養を養う。

□6月30日～7月9日 前期試験

定期考査を通じて、学習の習熟度・理解度を確認する。

□9月18日～9月20日 文化発表展

授業で学んだことを活かし、部活動発表や個人パフォーマンスを披露する。

保護者や講師に見せることはもちろん、生徒募集の兼ね合いで中学生、進路指導の一つとして芸能プロダクション各所にも見学してもらう。

□1月19日～1月28日 後期試験

定期考査を通じて、学習の習熟度・理解度を確認する。

□2月26日・2月27日 3年生を送る会・感謝祭

一年間の総まとめの発表を行う。

保護者・講師・在校3年生に見てもらう。

□3月10日 卒業式

卒業の区切りとして式典を行い、卒業証書及び資格証書の授与を行う。

□7月15日・16日

12月16日・17日

3月11日～15日 特別ワークショップ

通常の授業では学ばない教科や体制・体系でのカリキュラム。

生徒の興味関心を高め、やる気のある生徒の能力を伸長することを目的とする。

・その他

□コミュニケーション学という教科を新設。通常授業にはない知識を様々な講師を招いて実施。

東京表現高等学院 MIICA

・主要イベント

□芸術鑑賞会や校外学習等は可能な限り学年ごとに分散して随時実施

□9月 秋の芸術祭 感染状況により来場・オンライン並行実施予定

□合宿代替行事として、日帰り研修を長瀬にて実施予定

□3月 春の芸術祭 感染状況により来場・オンライン並行実施予定

□修学旅行の中止に伴い、3月の卒業式前に卒業旅行（日帰りまたは一泊二日）を実施予定

・その他

□選択授業を増やし、カリキュラムの個別最適化を図る。

□ビジネス分野や国語力の醸成などに重点をおいたカリキュラムを新設予定。

□ICT を活用し、クリエイター やゲストスピーカーのライブ配信に参加することができる

Inspire High プログラムを導入予定。

2) 学生生徒支援

・各種奨学金や助成金等

学生生徒の教育費負担を軽減するため、各種奨学金や助成金等が用意されている。

□奨学金 日本学生支援機構、日本政策金融公庫、オリコ学費サポートプラン、新聞奨学生、

公益社団法人 東京都私学財団 東京都育英資金貸与事業

□高等課程において、国が学費の一部負担を行う就学支援金制度や東京都が行う授業料軽減

助成金、奨学給付金などの支援がある。

□日本芸術専門学校 「高等教育の修学支援制度」認定校として更新申請予定。

- ・カウンセリングの機会を提供

退学者等の削減に取り組む一環として、昨年度に引き続き、カウンセラーによるカウンセリングを定期的に行う。

3) 施設修繕・整備

学内施設の修繕・整備については優先順位をつけて計画的に行うことで、充実した教育環境を整える。施設修繕や整備に関連した補助金についても積極的に申請予定。

3. 2021 年度 予算について

- ・予算方針

2021 年度において、日本芸術高等学園の大幅な生徒数の減少、また、かつて経営を支えていた附帯教育による収入がない状況等により引き続き厳しい経営状態が続いている。

今年度は、学園全体が一丸となって学生生徒募集に励み、附帯教育の復活や積極的な施設貸出、さらなるコストの見直しを行い、来年度は3校舎とも定員を確保することで、全ての校舎における教育活動収支をプラスとし、借入金に頼らない健全な経営にしていく計画。

- ・学生生徒納付金収入以外の収入の充実

感染防止対策を徹底しながら、昨年度は原則中止していた施設貸出を再開し、教室の稼働率を上げる。

また特定公益増進法人としてのメリットを活用した寄附金募集を改めて行う予定です。

さらに以前取り組んでいた附帯教育に代わる新しいかたちの附帯事業を校舎ごとに再開させる予定。

- ・ 広報、学生生徒募集について

特に日本芸術高等学園の入学者数を増やすために、全国の中学校への周知や昨年よりかなり多い体験授業の実施、積極的な中学校訪問を行う予定。そのため広報費用については昨年度より厚く計上。

また今年度より新たに、日本芸術専門学校と日本芸術高等学園において Instagram や Tik Tok を使用した SNS 広告を運用予定。中学校や高校への募集活動はもとより、芸能を目指す人や団体に対して積極的な広報活動を、前年度に引き続きさらに展開していく予定。

- ・ 人件費について

今年度教職員の大幅な増員は行わず、個々の働き方を見直して、業務の効率化を図る。

以下、今年度の資金収支予算書及び事業活動収支予算書を掲載。

2021年度 今年度の取組について

① 学生対応について

《概要報告》

・教室予約システムをオンライン化し、24時間スマホから簡単に自主練習の予約が可能になった。

※参考資料・web サイト

・所属コース変更希望に伴うルールを見直し、学生の悩みや進路希望を常に教務が把握できるよう、【面談希望申請書】を提出する事で随時進路相談等を行う制度を新設。

また、学科・コース変更の際は【学科・コース変更願】を提出し、教務と面談した上で了承が得られた者のみコース変更可能とした。

・今年度より正式に導入を開始した臨床心理士によるカウンセリングを定期的実施し、学校生活、人間関係、その他の悩みに対する学生の心のケアに努めた。

・学生の退学率は昨年の19.8%(18名)から今年度は7.4%(7名)に減少している。

・学生の進路を決める「プレシャスオーディション」は、グループ高校とも連携し高校生の参加者も募る事でグループ連携を図った。実施に際しては、感染防止の観点からも昨年度以上にオンライン化に注力し、参加企業も150社を超えるなど、学生の就職の機会獲得、モチベーションアップに努めた。

※参考資料「オーディション風景」ビデオ

② 「ミュージカルコース」の授業増設について

《概要報告》

「ミュージカルコース」については来期からの学科昇格に備え、学生の歌唱力強化のため、ゴスペルを学べるボーカル授業の設置、門下生制度による個人レッスン、技術面以外の専門知識獲得のための「ミュージカル研究」授業などを計画中。

また、演技力強化のため「ミュージカル演技」「舞台演技」を増設。どちらも2年生必修とした。

「シアターダンス」各授業の講師が連携し、年度内でクラスの入替えが出来るようになった。

③ コロナ禍での「学園祭」「総合舞台制作」について

《概要報告》

・卒業公演までの中間発表の場となる9月4日、5日の学園祭では、コロナ禍で中止の選択も検討したが、可能な限りの感染防止策を講じ、無観客でありながら臨場感を損なわない試みとして、プラットフォームをYouTubeからVimeoに変更し、完全な生放送形式での配信を行った。

両日の模様はアーカイブでも公開中で、再生回数の累計は 2022 年 1 月現在で、4 日 1120 回、5 日 1823 回を記録している。**※参考資料「学園祭ハイライト」ビデオ**

・2022 年 2 月から開催予定の総合舞台制作（卒業公演）については、厳格な感染防止ガイドラインを策定し、定期的な抗原検査と PCR 検査を全員に実施、紙の入場チケットを全面廃止してデジタル化するなど、有観客でも安全な公演の実現に向けて努力していく。

※参考資料「ライブポケット」web サイト

④ **コロナ禍での「ミュージカルプロジェクト」について**

《概要報告》

・公演の安全性と作品としてのクオリティ・臨場感の両立を目標に、厳格な感染防止ガイドラインを策定し、複数回の PCR 検査実施、出演者とその他の学生の動線を別けるなどの非常に細かいルールを徹底させ、有観客での公演を実現した。

その結果一人の感染者も出すこと無く、10 月 28 日から 31 日までの全 8 公演を無事終了した。

※参考資料「ミュージカルハイライト」ビデオ

⑤ **「機材の充実」について**

《概要報告》

・昨年度に配信関係の機材をいち早く充実させた事と、本年度はさらに映像編集のための周辺機器を拡充させた事で、オンライン授業、オンライン体験授業が容易に開催できるようになった事に加え、学園祭、ミュージカルプロジェクト、卒業公演等の収録・編集・Blu-ray 制作等も学校内で全て完結できるようになった。

・第 1 教室全ての Mac に Blu-ray ドライブを追加、アドビ・クリエイティブ、オフィス関連のソフトを追加して、DTM 以外の用途にも対応できるように整備した事で、学生が自分でプロフィール等を自由に作成できる環境を整えた。**※参考資料「Blu-ray ドライブ」写真**

・図書貸し出しとして、舞台 DVD や舞台に関する書籍貸しのラインナップを充実させ、学生のための更なる図書活用環境を整えた。**※参考資料「図書室」写真**

・授業での利便性と上演作品のクオリティアップのため、地下ホールにスピーカーを増設、舞台照明に LED ライトを追加購入。機材の刷新については、今後も引き続き実施予定。

参考資料※「LED」写真

2021年度 学生アンケート結果

1. 年間を通して授業を受けて思ったこと、感じたこと。

① 「授業数が少ない」という意見、「抽選」に対する意見

- ・30単位までという上限が少し少ないと感じた。
- ・行事も収穫は沢山あるが、もっと授業を受けたかった。
- ・授業内容は良かったが授業数が少ない。
- ・抽選で取れない授業があるのが悲しい。
- ・公平に全員抽選して欲しかった。
- ・通常授業の回数が少ないのと、Mプロに出れないと3ヶ月空いちゃうのがな…って思った。
- ・受講人数が多ければ抽選になりますというのは、オープンキャンパスで教えて欲しかった。
- ・抽選になったにも関わらず来ない人が居るのは、落ちた人からしたら本当に許し難い。
- ・単位取れないくらい来てない（欠席の多い）人が居たら、抽選で落ちた人が受けられる権利が欲しい。

② 「代講・休講」に関する意見

- ・先生が決め手で授業を選択したのに代講が多過ぎると残念だ。
- ・代講が多くなる事がわかった時点でその授業を受け続けるかどうかの選択肢を与えて欲しい。
- ・遠方から来ている生徒にとっては登校中に（休講を）知ることもしばしばだった。
- ・休講になった授業の連絡が急すぎるのと、その授業の振替が無い。

>今年度はミュージカル・プロジェクトを10月後半に移さざるを得なかったため、8月2週から10月末までの期間中に学園祭を開催して、3カ月間なにも授業が無いという学生が出ないようにしました。

授業回数に関しましては、本学は法定の授業時間数30単位時間を超える36単位時間のカリキュラムを提供しています。

今年度はコロナウイルスの感染拡大により臨時休校がありましたが、昨年度と同じ回数を年度内に行えるよう、イベント等と合わせて再調整しています。

そのため、当初計画どおりの授業数を確保しております。一方で、学生の授業に対する満足度、充実度をさらに上げるため、いくつかの授業、たとえば「舞台演技」の授業数などは来期倍に増やす計画です。

>授業が重なる事に関しましては、講師の皆さんのご都合を伺った上で時間割を作成しております関係で、どうしても一部重なる場合がございます。

今後はさらに多くの新しい講師をお招きしたり、人気の授業は回数を増やすなどして、学生が選択しやすい時間割の作成に努めて参ります。

>受講人数が入学前に聞いていたより多かったという意見に関しましては、カリキュラムの関係で受講生徒数が偏ったり集中したりした例があり、ご迷惑をお掛けいたしました。今後も授業数の見直しをおこなうと共に、入学希望者に対しましても生徒募集計画を正しくお伝えしていく事で改善に努めて参ります。

>抽選授業を選択した学生については欠席が無いように指導すると共に、欠員が出た際に聴講生を募るなど、希望する生徒のフォローも検討して参ります。

③ 「良かった、成長できた」等の意見

- ・自分の実力を知れて新しい目標を立てる事ができた。
- ・自身の成長が実感できて嬉しい。
- ・細かく指導をしてくださり、入学した時よりも成長できているのではないかと思えた。
- ・とてもいい先生方に会えて沢山学ぶことができて感謝。
- ・先生方は皆さん愛のあるレッスンをしてくださりとても充実した1年だった。
- ・この世界の厳しさ、楽しさ、様々なことを感じられた。
- ・今まで見たことのない世界が見えた
- ・固定概念が強かった自分を色々な授業を受けることによって色々な人の思いや考え方を、改めて理解し受け入れ実践できるようになった。

>特に一年生からは、本校に入学し学ぶ事に対しての喜びの意見も多数投稿されました。

2. 学校行事(入学式・ガイダンス・オリエンテーション・特別講義・レクリエーション・学園祭・プレシャスオーディション・芸術鑑賞授業・総合舞台制作)で思ったこと、感じたこと。

- ・学祭はいろいろなことにチャレンジできて楽しかった。
- ・学園祭という発表する場がある事は良いと改めて感じた。
- ・2年間やった事を家族や友達に見せられる良い機会になった。
- ・その場に来て観てもらう方がやってて楽しいと思った。
- ・学園祭は楽しかった。 来年もオンラインで良いと思った。
- ・1人では舞台に立てない、こんなに多くの支えが必要なんだと実感出来た。
- ・早くコロナが落ち着いて早く合宿が出来ればいいな。
- ・こんなに沢山行事があつて、出来るのもとてもありがたい事だと思った。
- ・行事への準備期間が少なかった時があった。
- ・プレシャスオーディションや総合舞台制作が、本番ギリギリで始まって、もう少し時間の余裕が欲しかった。

>合宿を楽しみにしていた学生の期待には添えませんでした、多くの学生からは満足のいくイベントであったとの評価を頂戴しました。

2021 年度 第 2 回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2022 年 3 月 16 日（火）14:00～

場所：日本芸術専門学校 第 3 教室

出席者：12 名（敬称略）

高山 佳音里、ひの あらた、小高 三良、大西 伸行、砂田 明子、竹下 恭平
武田 光弘、山口 忠生、西垣 俊紘、鈴木 秀範、中迫 まい子、広井 里佳

欠席者：1 名（敬称略）

大島 幾雄

中迫氏が司会進行。

まずは武田氏が校長挨拶を行った。

その次に、今回初めて参加される学校関係者評価委員の小高氏から挨拶をいただいた。

次に司会から配布資料の説明をした。

■配布資料

①2021 年度 学校関係者評価 報告書

②2021 年度 自己点検・評価

また司会から下記の説明を行った。

- ・本日の会議では学校関係者評価委員の皆さまからいただいた評価をまとめた報告書の内容の審議・決定を行っていく、また本日は小項目ごとに評価結果の確認を行い、いただいたコメントについては、学校側で割愛・修正した箇所のみ説明する。
- ・「2021 年度 学校関係者評価 報告書」がホームページ等の「情報公開」に公表されることとなるが、報告書内に学校関係者評価委員の皆さまのお名前は表記しない。
- ・学校関係者評価委員の構成や、各回の議事録には、皆様のお名前を表記する。

次に「2021 年度 学校関係者評価 報告書」の項目ごとに評価結果の数字及びコメントの確認を行った。

・大項目Ⅰについて

全体の質問は特になし。

・大項目Ⅱについて

『2-10 学則等の定期的な見直し』にある校名変更について、理事長より、「大学名に間違われることは確かにある、ただこの学校には歴史があるので、校名を丸ごと全て変えようとは考えていない、主に募集活動において誤解を招く場面（どのような学校なのかよく分からない）などがあるため、具体的になにを学ぶ学校であるか分かりやすくするため、校名は残してサブタイトルをなにかつける、というやり方を考えている。」

と補足説明があった。

全体の質問は特になし。

・大項目Ⅲについて

下記小項目について山口氏より補足説明があった。

『3-4 カリキュラムの定期的な点検及び見直し』

各授業の授業アンケートを年末の最終授業で学生に行っており、次年度のカリキュラムづくりの材料や講師・授業内容の見直しに活用している旨補足説明を行った。

『3-6 シラバスの作成・学生への提示状況』

まずコメントの中の「講義スケジュール」とはどのようなものか、山口氏から大西氏に質問をした。

大西氏から「主に各授業で使う教室のことで、当日の教室変更なども、今後スマホなどで確認できると良いと思う」と意見があった。

それを受けて、山口氏から「シラバスをメールで送る他、今後時間割も講師に共有しようと思う」と補足説明があった。

『3-23 職員の人数並びに年齢構成、男女のバランス』

ここでの職員は、法人本部事務局の事務職員のことであるため、「先生」という表記は「職員」という表記へ変更した旨補足説明を行った。

全体の質問は特になし。

・大項目Ⅳについて

全体の質問は特になし。

・大項目Ⅴについて

『5-7 奨学金制度の整備』

山口氏より、「ここ数年間、新聞奨学生の問い合わせはあるものの、実際に利用している学生はいない」と補足説明があった。

高山氏より、「他校のケースだが新聞奨学生は体力的にも大変そうに感じる。」と意見があった。

続いて小高氏より、「確かに大変そうだが、それをくぐり抜けた学生はとてもしっかりしているように感じる。」という意見があった。

全体の質問は特になし。

・大項目Ⅵについて

全体の質問は特になし。

・大項目Ⅶについて

全体の質問は特になし。

・大項目Ⅷ～Ⅺについて

高山氏から授業の抽選はどのように行われているか、と質問があった。

司会から「教務側で機械による抽選を行っている。

特定の授業については、専攻の学生は残した上で抽選を行うというやり方をとる場合もある。

来年度は各授業の定員を事前に知らせる予定。」と説明をした。

全ての項目の確認が終わったあと、学校関係者評価委員全員に一言ずつご意見や感想をいただいた。

・高山氏

今いる学生に対しての問題、特に少人数制をうたっているけれど人数が多くなってしまう授業についての改善がなされればさらに良いと思う。

また With コロナの時代なので、海外研修や合宿に代わるなにかを考えないといけない時だと思う。

やはり合宿がない分、学生間のコミュニケーションが浅いように感じる。

以上のご意見をいただいた。

・竹下氏

長らく検討中の項目などを、少しずつでも改善していければ良いと思う。

合宿については、この学校ならではのものだと思っていた、今後復活できれば良いと思う。

以上のご意見をいただいた。

・ひの氏

「来年度ミュージカル学科になってどう変化するか。」と質問があり、

司会より「ミュージカルは門下生でヴォーカル授業を行うことが決まっている。」と回答をした。

講師と協力体制をとってなにかシーンワークなどをやれると良いと思う。

予算をかけなくても、衣裳などなくても、ストーリーや歌があるだけで学生の特性をみられる、そのような見てもらえる機会が他の授業にもあると良い、映像に残してそれをプレゼンに使うこともできるのではないか。

またイベントを行う際、見にきてもらえる人とも、連携したい。

芸能事務所だけでなく、制作会社との連携も必要だと思う。

校名についてはたとえばプロパフォーマー育成というような単語をいれたサブタイトルはどうか。

以上のご意見をいただいた。

・小高氏

このような評価、点検の機会があると知らなかった、これらが行われた上で学校運営をしているということを対外的に知らしめることができればと良いと思う、教育理念はしっかり物理的に掲げた方が良いと思う。

また、たとえば授業の中で細かい相談（学生の必要な情報など）をだれにしていいいか、分からない、窓口を明確にしてほしい。

以上のご意見をいただいた。

理事長から「来年度4月から学科担任制をとるので、担任が明確となる。」と補足説明があった。

・大西氏

評価委員会が存在して、そこで評価して運営していることは素晴らしいと思う。

ただ、それらが受け手である学生に伝わってない部分があると思うので、そこも伝えられればさらに良いと思う。

最近、学年を超えたつながりが希薄のように感じる、縦のつながり、親睦を深めるなにかしらがあると授業にとっても良いと思う。

自分のスキルをどのようにマネタイズしていくか、学生の頃からそのような視点を勉強する機会があると良いと思う。

以上のご意見をいただいた。

理事長から「MIICAではまさにマネタイズのような勉強をしている、そのようなプログラムを専門にも移植したい」と補足説明があった。

・砂田氏

このコロナ禍で今の中高生はあきらめ世代、感情のない世代などと言われることもある。今後様々な子が専門に入学してくると思うので、この学校に入ってよかったと思える学校になれば良いと思う。

以上のご意見をいただいた。

最後に司会より、第3回の学校関係者評価委員会は4月6日（水曜日）15：00から行う予定である旨説明があり、この会は15：45に終了した。

以上

2021 年度 第 3 回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2022 年 4 月 6 日（水）15:00～

場所：日本芸術専門学校 第 3 教室

出席者：11 名（敬称略）

高山 佳音里、小高 三良、大西 伸行、砂田 明子、竹下 恭平

武田 光弘、山口 忠生、西垣 俊紘、鈴木 秀範、中迫 まい子、広井 里佳

欠席者：2 名（敬称略）

大島 幾雄、ひの あらた

中迫氏が司会進行。

次に司会から配布資料の説明をした。

■配布資料

- ① 本日の議題
- ② 日本芸術専門学校 2022 年度の取組
- ③ 2022 年度 授業時間割
- ④ 2022 年度 学科・コース編成／必修科目一覧
- ⑤ 日本芸術専門学校 2022 年度組織図
- ⑥ 2022 年度 年間スケジュール

次に司会から学校関係者委員会の振り返りとして、下記 3 点質問をした。

①開催時期について

今回は 2 月 1 日、3 月 16 日、4 月 6 日と 3 回行ってきたが、時期や回数についてどうだったか。
以下委員の回答。

竹下氏…回数と時期は良かったと思う。

大西氏…回数と時期ともに適切。

高山氏…回数も時期も妥当。

小高氏…今回初めての参加だが、タイミングは今のままでいいと思う。

砂田氏…時期も回数も良かった。

②評価作業量について

今回、委員会とは別に学校が自己評価をした項目に対して、一つずつ評価及びコメントをいただく作業を行ったが、どうだったか。

以下委員の回答。

竹下氏…作業量はとても多いが、項目が多いが仕方ない。データでの提出ができたことはよかったが、データの罫線はない方がよい。

大西氏…作業量が多いが、データ提出はありがたかった。感知できない項目があるので、その点なにか考慮してほしい。また重点項目を増やした方がよいと思う。

高山氏…作業量が多い。聞かれても答えられない質問があるので、空白でもいいというような案内があれば尚よいと思う。

小高氏…量的には多いが、このくらいの点検項目は必要なのだと思う。

砂田氏…作業量が多いが、負担にはならない。

③委員会の進め方について

進行が適切だったかどうか。

以下委員の回答。

竹下氏…重点項目のように、意見を交わせる項目がもっと増えてもよいと思う。

大西氏…進め方は問題ない。時間の工夫が必要だと思うが、せっかく対面があるので重点項目についてもっと増やして意見交換できればよいと思う。

高山氏…委員会 2 回目で行った全項目を読みあげる時間を、意見交換の場に充てられれば、尚よいと思う。

小高氏…項目によって討論を積み上げていく項目があってもよいと思う。あくまで時間の許す範囲で。

砂田…他の委員のみなさんと同じ意見。

次に日本芸術専門学校の今年度の取組について、校長の武田氏から、「今年度、大森校は大きく組織替えをした。入学前から卒業後まで、1人1人しっかりみていくことで、よりプロフェッショナルな教育を提供していきたい。」という説明があった。

次に配布資料【②日本芸術専門学校 2022 年度の取組】に沿って説明を行った。

資料② 1～3 西垣氏が説明した。

4～8 中迫氏が説明した。

9 鈴木氏が説明した。

全ての議題が終了したあと、学校関係者評価委員全員に一言ずつご意見や感想をいただいた。

竹下氏…評価委員の意見を汲んでいると分かるので、良いと思う。

大西氏…ディプロマの設置など、おもしろい取り組みだと思う。グーグルクラスルームの設置も授業で役立つと思う。

高山氏…ディプロマの設置はすごく良いと思う。グーグルクラスルームは使い方を早めに知りたい。また学生の情報共有は引き続き行ってほしい

小高氏…講師の有志のコミュニケーション会議は、とても必要だと思う。

また募集について、たとえば高校の演劇部の大会などに広報活動を行うのも有意義だと思う。

砂田氏…もともとは専門と高校が同じ校舎だった。その時は高校生にとって専門生はあこがれの的だったので、今後内部進学を増やせば良いと思う。

その後、司会から

- ・学校関係者評価については、報告書と議事録を5月に日本芸術専門学校ホームページにて公開する旨
 - ・2022年度の学校関係者評価委員会については、2月～4月にかけて、全3回開催する予定となっているため、日にちが近づいたら皆様にスケジュールの確認をさせていただく旨
- 説明があった。

最後に校長の武田氏から、学校関係者評価委員の皆様、「小さい学校だが、1人1人に目配りができる学校にしていきたいと思う。」と抱負とお礼を述べ、この会は15:45に終了した。

以上

1. 定員充足に向けた広報・募集活動の強化

- ・ 専門講師によるグループ校高等課程への出張授業
- ・ 専門／グループ校高等課程 共通単位授業の設置、専門校舎での土曜授業開講（資料③参照）
- ・ アドミニストレーション部門の設置
- ・ 高校の新規開拓、プレゼン強化

2. ミュージカルコースの学科昇格（資料③④参照）

- ・ ミュージカルヴォーカル授業の門下生制度採用
- ・ 演技科目の授業の拡充

3. 職員の担当の明確化（資料⑤参照）

- ・ 講師専用の問い合わせメールを設置
- ・ 学科ごとに担当教員を設け、窓口を選任

ミュージカル学科担当 → 高橋 依里（たかはし えり）

演劇学科・芸術学科担当 → 後藤 千恵（ごとう ちえ）

4. 本校または他校の卒業生を対象としたディプロマクラスの開講

- ・ 歌、演技、ダンスのカリキュラムを行い、卒業後の更なるスキルアップを狙う。

*** レッスンスケジュール**

平日 16:30～18:30

土曜日 9:30～11:30/12:10～14:10 を予定

- ・ ディプロマ生の施設利用無償化
- ・ 年1回の Precious Audition(外部向け学内オーディション)への参加可能
- ・ オーディション情報開示／進路決めをバックアップ

*** 今後のスケジュール**

2022年8月 プレ開講

2022年10月 正式開講（前期・後期制）

5. 職業実践専門課程認定に向けた取組

- ・企業等との密接な連携により、最新の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程であることの認定を目指す。

* 今後のスケジュール

- ～2022 年 12 月 企業内実習・インターンシップが可能な企業が行うカリキュラムの決定
- 2023 年 9 月 教育課程編成委員会の開催
- 2023 年度中 企業内実習・インターンシップを実施／教職員研修の開催
- 2024 年度 職業実践専門課程の認定校申請

6. 学生情報の開示について

- ・個人情報を含むため慎重に対応しつつ、特にウォッチが必要と思われる学生や LGBTQ の学生に関しては、契約書読み合わせの際に（もしくは開講前に）講師と必要に応じて情報共有を心掛ける。
- ・退学情報について随時情報共有を行う。

7. 講師の有志のコミュニケーション会設置、Google Classroom の作成

- ・年に 2 回学科・コースごとに日程を決め、参加可能な講師で授業内容や学生の様子・傾向等について意見交換を行う場を設置する。
- ・Google Classroom を授業ごとに作成し、講師・履修学生・職員が参加し、必要に応じて課題や授業ごとのアナウンスができ、職員もやりとりを把握できるようにする。

8. 同窓会組織の立ち上げについて

- ・高等課程では今年度立ち上げ予定。
- ・今後、グループ校高等課程からの入学者を増やし、同窓会組織の立ち上げ準備、会長・委員の選任、同窓会名簿の整備、年に 1 回のホームカミングデーの開催など、高等課程と協力し行っていく。

9. 電気設備（キュービクル）の新規リニューアル

- ・経年劣化も踏まえ今回新規更新を 2022 年度に行う。
省エネ型の機器を取り入れ、これにより現在のキュービクルよりも運転時に発生している電気ロスを減らす事が可能になり、節電に繋がる。